

学校法人東洋大学

組織図(2022年5月1日現在)



学部 Faculties	文学部 Faculty of Letters	国際観光学部 Faculty of International Tourism Management
	哲学科/東洋思想文化学科★/日本文学文化学科★/英米文学科/史学科/教育学科★/国際文化コミュニケーション学科	国際観光学科
	経済学部 Faculty of Economics	情報連携学部 Faculty of Information Networking for Innovation and Design
	経済学科★/国際経済学科/総合政策学科	情報連携学科
	経営学部 Faculty of Business Administration	ライフデザイン学部 Faculty of Human Life Design
	経営学科★/マーケティング学科/会計ファイナンス学科	生活支援学科/健康スポーツ学科/人間環境デザイン学科
	法学部 Faculty of Law	理工学部 Faculty of Science and Engineering
	法律学科★/企業法学科	機械工学科/生体医工学科/電気電子情報工学科/応用化学科/都市環境デザイン学科/建築学科
	社会学部 Faculty of Sociology	総合情報学部 Faculty of Information Sciences and Arts
	社会学科★/国際社会学科/社会福祉学科/メディアコミュニケーション学科/社会心理学科	総合情報学科
	国際学部 Faculty of Global and Regional Studies	生命科学部 Faculty of Life Sciences
	グローバル・イノベーション学科/国際地域学科★	生命科学科/応用生物科学科
		食環境科学部 Faculty of Food and Nutritional Sciences
		食環境科学科/健康栄養学科

大学院 Graduate Schools	文学研究科 Graduate School of Letters	社会福祉学研究科 Graduate School of Social Welfare
	哲学専攻/インド哲学仏教学専攻/日本文学文化専攻/中国哲学専攻/英文学専攻/史学専攻/教育学専攻/国際文化コミュニケーション専攻	社会福祉学専攻
	社会学研究科 Graduate School of Sociology	生命科学研究科 Graduate School of Life Sciences
	社会学専攻/社会心理学専攻	生命科学専攻
	法学研究科 Graduate School of Law	ライフデザイン学研究科 Graduate School of Human Life Design
	私法学専攻/公法学専攻	生活支援学専攻■/健康スポーツ学専攻■/ヒューマンライフ学専攻■/人間環境デザイン専攻
	経営学研究科 Graduate School of Business Administration	学際・融合科学研究科 Graduate School of Interdisciplinary New Science
	経営学・マーケティング専攻/ビジネス・会計ファイナンス専攻★	バイオ・ナノサイエンス融合専攻
	理工学研究科 Graduate School of Science and Engineering	総合情報学研究科 Graduate School of Information Sciences and Arts
	生体医工学専攻/応用化学専攻/機能システム専攻/電気電子情報専攻/都市環境デザイン専攻■/建築学専攻■/建築・都市デザイン専攻■	総合情報学専攻
	経済学研究科 Graduate School of Economics	食環境科学研究科 Graduate School of Food and Nutritional Sciences
	経済学専攻/公民連携専攻★■	食環境科学専攻
	国際学研究科 Graduate School of Global and Regional Studies	情報連携学研究科 Graduate School of Information Networking for Innovation and Design
	グローバル・イノベーション学専攻■/国際地域学専攻	情報連携学専攻
	国際観光学研究科 Graduate School of International Tourism Management	
	国際観光学専攻	■…修士・博士前期課程のみ設置 ■…博士後期課程のみ設置 印なし…博士前期・博士後期課程

研究所 Research Institutes	人間科学総合研究所/現代社会総合研究所/東洋学研究所/アジア文化研究所/地域活性化研究所/工業技術研究所/ライフイノベーション研究所/バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター/アジアPPP研究所/グローバル・イノベーション学研究センター/情報連携学術実業連携機構
----------------------------	---

大学院・学部併設センター Research Institutes and Centers affiliated with Graduate Schools and Faculties	生体医工学研究センター/PPP研究センター/国際共生社会研究センター/福祉社会開発研究センター/計算力学研究センター/産学協同教育センター
--	---

★印は学部の場合は第2部・イブニングコースを設置していること、大学院の場合は主として夜間に授業を行う課程を示す

東洋大学はいま 2022

TOYO UNIVERSITY



<https://www.toyo.ac.jp/toyo2022/>

東洋大学はいま2022



詳細はWebで
ご覧いただけます
You can also view this
data on our website.

建学の精神
The Founding Spirit of Toyo University

諸学の基礎は哲学にあり
The Basis of All Learning Lies in Philosophy

独立自活
Independence and Self-Initiative

知徳兼全
Integrating Knowledge and Virtue

学部学科数 (2022年度)
Number of Faculties and Departments

13 学部 **45** 学科
13 Faculties and 45 Departments

新制大学に移行した1949年の文学部設置以来、東洋大学は総合大学として13学部45学科を擁するまでに発展し、全ての学部で4年間一貫の同キャンパス教育体制を実現。また、大学院は現在、15研究科36専攻から成り立っています。

外部評価 External Evaluation

14年連続
14 Years in a Row

AA

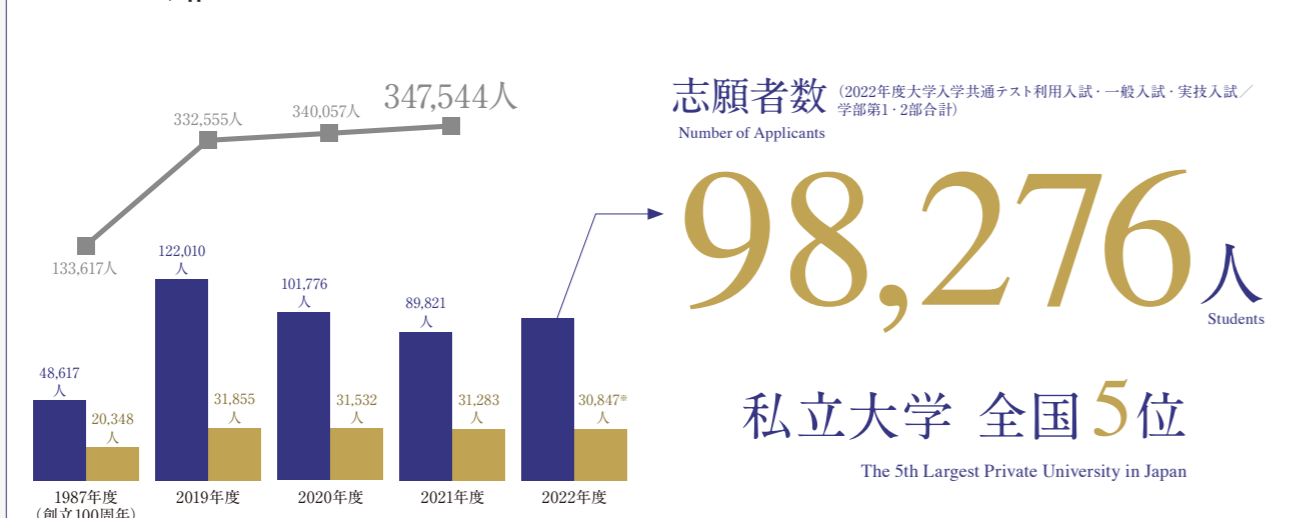
東洋大学は、2022年1月に株式会社日本格付研究所(JCR)より、14年連続で長期発行体格付の「AA」(ダブルAフラット)、21段階の上から3番目の格付を取得。格付の見直しは「安定的」とされました。格付事由は、「強い学生獲得力を維持していること」「強固な財務基盤」などが挙げられています。

第2部・イブニングコース入学定員 (2022年度)
Evening Course (Night School) Admission Capacity

意欲ある学生が一人でも多く学べるように、学費を抑えた第2部・イブニングコースを6学部8学科に設置。夜間学部の定員数は日本の大学で最大規模であり、全私立大学夜間部学生の約28%が東洋大学に通っています。

710 人
Students

卒業生数・志願者数・学生数の推移
Number of Alumni, Applicants and Students



2022年度大学入学共通テスト利用入試・一般入試・実技入試志願者数は98,276人で、これは国内615校の私立大学で5番目の規模です(2022年度入試の結果はP.18に掲載)。また、これまでの卒業・修了生は34万人を超え、それぞれ社会の第一線で活躍しています。
*2022年5月1日現在の暫定数であり、変更になる場合があります。

海外との協定数 (2022年3月31日現在)
Overseas Agreements

大学間 Inter-university Agreement

37 カ国・地域 **236** 協定
Countries Agreements

部局間等 Inter-departmental Agreement

33 カ国・地域 **92** 協定
Countries Agreements

東洋大学は、219大学・6コンソーシアム・7機関・3都市と大学レベルの協定を結んでいます。
*詳しい情報はP.21に掲載

就職率 (2022年3月卒業生)
Employment Rate

97.0 %

学内企業セミナー参加社数 (2021年度)
Number of Companies Participating in On-Campus Company Information Sessions

693 社
Companies

朝日新聞出版「大学ランキング 2023」では、就職率 第9位(卒業生2,000人以上、2021年3月卒業生実績)。2022年3月卒業生(学部第1部)の就職率は97.0%と高い水準を維持しています。

THE世界大学ランキング日本版2022
Times Higher Education Japan University Rankings 2022

首都圏大規模大学* 国際性 **8** 位
Environment Ranked 8th

首都圏大規模大学* 教育充実度 **10** 位
Engagement Ranked 10th

「THE 世界大学ランキング日本版 2022」において、私立の首都圏大規模大学における教育充実度で10位(全体40位)、国際性で8位(全体41位)、総合ランキングで13位(全体73位)となりました。
*私立大学、首都圏大規模大学[大学定員数 5,000人以上]

海外留学・研修派遣者総数(7年間)
Total Number of Students Dispatched for Overseas Study and Training

11,026 人
Students

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択。学生の海外経験を促す多彩なプログラムによりグローバルリーダーを育成しています。
*2020・2021年度はオンライン参加の人数も含む。

給付型
大学独自の奨学金支給総額 (2021年度)
Total Amount of Our Grant-type Scholarship Paid

11億 5,272 万円
1152.72 Million Yen

大学独自の学部生向け奨学金の給付総額。

給付型
海外留学を支援する奨学金支給総額 (2015年度～2021年度)
Total Amount of Scholarship Paid for Study Abroad Support

8億 2,593万 3,013 円
825,933,013 Yen

東洋大学海外留学促進奨学金としてのべ2,537人、東洋大学交換・認定・協定校語学留学奨学金としてのべ1,190人へ給付しました。

創立者 井上円了とは

Introducing Toyo University Founder.
Enryo Inoue

哲学教育を礎とし 世界に通用する人材を育てる

Nurturing World-class Talent Based on Philosophy Education

東洋大学は1887(明治20)年、哲学者・井上円了が創立した「私立哲学館」により、その歴史が始まりました。急速な近代化とともに日本の社会が大きく変わろうとしていたこの時代、円了は日本人が哲学を学び、「ものの見方、考え方」をしっかりとし身に付ける必要があると考えました。このことから、哲学館では、いわゆる哲学者を養成するのではなく、哲学を通して知力を磨き、広く社会の中で活躍できる人材を育成することを教育目標としました。

Toyo University's history began in 1887, when philosopher Enryo Inoue founded a private school called the *Shiritsu Tetsugakukan*. Enryo Inoue believed that "for Japanese people living in the new era, philosophy will be the foundation of all thought." Rather than focusing on training professional philosophers, he emphasized the importance of "practice of philosophy," namely the value of ordinary people living upon their own thoughts and initiative through learning philosophy.



井上 円了(1858年～1919年)

1858(安政5)年、現在の新潟県長岡市の寺院、慈光寺の跡取りとして生まれる。10歳の頃から私塾で漢学の素養を磨いた後、16歳で長岡の洋学校(現新潟県立長岡高等学校)に入学し洋学を学んだ。20歳のとき、京都・東本願寺の国内留学生に選ばれ上京。東京大学予備門を経て、1881(明治14)年に東京大学文学部哲学科に入学し、哲学を修めた。卒業後は、新進気鋭の哲学者として、『哲学一話』、『仏教活論序論』などの著書を世に送り出し、高い評価を受けた。

1887(明治20)年、「諸学の基礎は哲学にあり」の理念の下、東洋大学の前身となる哲学館(後の哲学館大学)を創立すると、学校での教育とともに、全国巡回講演(巡講)や海外視察(世界旅行)を精力的に行うなど、独自の教育活動を展開した。学校経営から身を引いた後は、社会教育に傾注し、1919(大正8)年に生涯を閉じるまで、哲学堂(現中野区・哲学堂公園)の建設や講演、著述などの活動を通じて、教育による日本社会の発展と哲学の普及に力を尽くした。

東洋大学×サザコーヒー

オリジナルコーヒー「井上円了珈琲物語」を開発 発売を記念して特別対談コンテンツを公開中

2022年3月、本学卒業生の鈴木誉志男氏が代表取締役会長を務める株式会社サザコーヒー(茨城県)とのコラボレーションにより、創立者・井上円了が世界を旅した中でブラジルやイエメンなどのコーヒー産地を訪れていた史実に基づきオリジナルコーヒーを開発しました。発売を記念して、鈴木誉志男氏と東洋大学井上円了哲学センターの長谷川琢哉研究助手による特別対談をWebサイトで公開しています。円了の旅と哲学観、意外なコーヒーとの接点について語り合っていました。



特別対談

井上円了はグローバルな探究者！
コーヒーを愛した旅する哲学者が世界で見たもの

<https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/culture/enryou-sazacoffee/>



「井上円了珈琲物語」販売サイトはこちら

東洋大学オリジナルグッズショップ
(運営：東洋大学グローバルサービス株式会社)

<https://toyotugsshop.official.ec/>



旅する哲学者

井上円了は、「活書活学」という言葉で、現実世界を活きたテキスト(活書)として、実体験から活きた学び(活学)をする大切さを説きました。そして、自らも「活書活学」を実践すべく、生涯3度にわたり世界一周の視察旅行を行いました。

旅を通して、円了は、世界各地に多様な自然と文化があることを知るとともに、欧米先進国の教育と宗教の実情について見聞を広めました。さらに、旅で得た知見を基に日本の現状をグローバルな視野から捉え直し、自らの教育事業の指針を定めています。

このような地球規模の「活書活学」によって、世界と日本がどこへ向かおうとするのかを探し続けた創立者独自の哲学は、現代の東洋大学にも受け継がれています。「グローバル人材育成」、「SDGs達成に寄与する研究の推進」など、東洋大学では今の時代・社会と向き合い、教育研究の推進と将来構想の策定に取り組むとともに、自己の哲学を磨き、物事の本質を見究められる人材の育成を行っています。

教育の門戸を広げる志

「余資なき者」(経済的余裕のない人)も、「優暇なき者」(時間的余裕のない人)も、哲学を中心とする諸学を短期間で修得できる。1887(明治20)年、井上円了は哲学館を創立するに当たり、このような趣旨を掲げました。そうしたところ、50名の入学定員に対して、希望者が殺到し、ついには200名ほど集まったところで入学謝絶となりました。

その翌年には、地方に住むなどの理由で通学できない人を対象に、『哲学館講義録』を頒布し、通信教育にも取りかかります。さらに、1890(明治23)年には、円了が自ら全国各地に出向いて講演を行う全国巡回講演も開始します。こうした取り組みは、広く民衆に教育機会を開放する試みとして、画期的なものでした。

現在、東洋大学では、教育の門戸を広げようとした創立者の志を受け継ぎ、6学部8学科に第2部・イブニングコースを設置するほか、社会貢献センターにおいて公開講座や講師派遣事業を行うなど、幅広い学びの場を提供しています。

哲学者にして妖怪博士

井上円了は、哲学者であると同時に妖怪研究の先駆者として知られています。円了が最初に妖怪研究に取りかかったのは、東京大学在学中のことで、いわゆる化け物だけでなく、俗信や精神現象、天変地異など、広く世の中で不思議とされている事象が研究の対象となっていました。こうしたものに対して、円了は科学的なアプローチでその解明に取り組みました。この極めてユニークな研究は、やがて妖怪学という独自の学問に体系化され、哲学館での講義や著書、講演などを通して、「妖怪博士」の異名とともに世間にも知られていきました。

妖怪学は、根拠のない思い込みや偏見に惑わされず、物事の本質を見極めることの大切さを説くものであり、日本を精神面から近代化しようとする試みでもありました。



東洋大学 沿革 History

- 1887年** 井上円了が本郷区龍岡町の麟祥院内に私立哲学館(東洋大学の前身)を創立する
- 1897年** 小石川区原町に新校舎落成(現・白山キャンパス)
- 1899年** 私立京北尋常中学校*を開設
※現・東洋大学京北中学高等学校
- 1905年** 京北幼稚園を開設
- 1906年** 私立東洋大学と改称
- 1916年** 日本の私立大学で初めて女子の入学を許可
- 1920年** 「私立」の冠称が廃止され、東洋大学へ改称
- 1949年** 新制大学に移行、文学部を設置
- 1952年** 大学院を設置
- 1961年** 川越キャンパス(埼玉県)を開設
- 1963年** 東洋大学附属姫路高等学校(兵庫県)を開設
- 1964年** 東洋大学附属牛久久高等学校(茨城県)を開設
- 1977年** 朝霞キャンパス(埼玉県)を開設
- 1997年** 板倉キャンパス(群馬県)を開設
- 2005年** 朝霞キャンパス(文・経済・経営・法・社会学部)の1・2年次を白山キャンパスに統合し、4年間一貫教育開始
- 2006年** 大手町サテライト(東京都)を開設
白山第2キャンパス(東京都)を開設
- 2011年** 総合スポーツセンター(東京都)完成
学校法人京北学園と法人合併し、京北中学校・高等学校、京北学園白山高等学校、京北幼稚園を併設校とする
- 2012年** 創立125周年を迎える
125周年記念館(8号館)にて記念式典を挙げる
- 2014年** 東洋大学附属姫路中学校(兵庫県)開設
文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業(タイプB)」採択
- 2015年** 京北中学校・高等学校が東洋大学京北中学高等学校に校名変更し、東京都文京区白山に移転
東洋大学附属牛久久中学校(茨城県)を開設
- 2017年** 赤羽台キャンパス(東京都)を開設
- 2021年** 赤羽台キャンパスに新校舎「WELLB HUB-2」が完成
ライフデザイン学部・ライフデザイン学研究科が赤羽台キャンパスに移転



理事長・学長の
特別対談がWebで
ご覧いただけます

You can also view this
data on our website.

理事長・学長あいさつ

Message from
Chairman & President

2年半余にもおよぶ新型コロナウイルス感染症の影響は今なお続いておりますが、東洋大学では、この4月から対面授業を本格的に再開しました。コロナ禍の環境ではいくつもの我慢を強いられてきましたが、これまでのオンライン授業を経て、キャンパスで対面授業を受けられるようになった学生たちは以前にも増して自ら学ぼうとする姿勢を見せています。今まさに若者の時代の到来を感じています。彼らは、ロシアによるウクライナ軍事侵攻による世界情勢や経済状況への影響、世界的な異常気象の頻発の引き金にもなっている地球温暖化の問題など、極めて予測困難な状況がいくつもあるなかで、これらを自分の問題として世界的な課題に向き合おうとしているのです。

危機的な状況であっても、学生自身が学び、将来にわたって生き抜く力を養う場としての大学の使命はゆるぎないものでなければなりません。厳しい状況にある今だからこそ学ぶものも多く、考えを深めることにつながることを信じております。

東洋大学は創立から今年で135年目を迎えますが、その先150年という節目を見据えたグランドデザインを計画しようと思っております。これは、私たちの世代ではなく、若い世代の意見や希望を反映したものになることでしょう。

「人生100年」の時代、大学に入学した学生たちには、2100年までおよそ80年の人生があります。そんな若者たちの未来という重責を大学は担っています。創立者井上円了の教育理念を受け継ぎながら、今後どんな急激な環境変化が起ころうとも、学生が思考を深め、しなやかに対応できる環境を作り上げることが経営の使命であると考えます。そのためには、強風にも枝を折らせて折れない、洪水でも水中に根を張って流されない柳のように、強靱で柔軟な組織を構築しようではありませんか。

Toyo University came back into full swing by offering in-person classes on campus in April 2022 while still suffering from the impact of COVID-19, which lasted for more than two and a half years. Students have had to endure a number of challenges in the ongoing COVID-19 situation; however, they can now take in-person class on campus after experiencing the previous online classes, and they are more willing than ever to learn on their own. What I realize now is that the age of youth has truly arrived. In the face of several extremely unpredictable situations such as the impact of Russia's military invasion of Ukraine on world affairs and economic conditions, and global warming issues which have triggered frequent extreme weather events around the world, students see such global issues as their own problems and are trying to confront them.

Even in times of crisis, the mission of a university as a place for students to proactively learn and develop their abilities to survive in the future must remain solid and unshaken. Now that we are in these difficult times, there is much to learn, and we need to deepen our thinking.

This year marks the 135th anniversary of the founding of Toyo University, and on this occasion, we will plan our grand design for the 150th anniversary. The plan will reflect the views and hopes of the younger generation, not our generation.

In this era of the "100-Year Life," university entrants have approximately 80 years to live until the year 2100. Universities assume great responsibility for the future of young people such as these. Succeeding the educational philosophy of our founder, Enryo Inoue, I believe that our mission as management is to create an environment in which students will deepen their thinking and respond flexibly to whatever rapid changes in the environment may occur in the future. To this end, let us build an organization that is as strong and flexible as a willow, whose branches are flexible enough not to break even in strong winds, and whose roots are strong enough not to be swept away by floods.



学校法人東洋大学 理事長

安齋 隆

Takashi Anzai

Chairman,
Toyo University Incorporated Educational Institution

1941年生まれ。東北大学法学部卒業。日本銀行(株)日本長期信用銀行(現・株)新生銀行)頭取、(株)アイワイバンク銀行(現・株)セブン銀行)社長などを経て、2009年12月学校法人東洋大学理事に就任し、2018年12月から現職。

東洋大学 学長

矢口 悦子

Etsuko Yaguchi

President, Toyo University

1956年生まれ。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科(博士課程)単位取得退学。博士(人文科学)。専門分野は社会教育学・生涯学習論。山脇学園短期大学教授などを経て、2003年4月から東洋大学文学部教授。文学部長などを歴任し、2020年4月から現職。

新型コロナウイルス感染症の流行から2年が経ちました。さらに2022年2月にはウクライナへの軍事侵攻という憂慮すべき事態が起こりました。しかし、いかなる状況であろうとも、学生たちに学びの場を提供するという大学の使命は変わりません。予測困難で不安定な世界情勢だからこそ、「なぜこのようなことが起きるのか」「なぜ誰も止められないのか」「どのように解決のための糸口を見つけるのか」といったことを考える場と時間を提供することが大学の役割であると感じています。

「諸学の基礎は哲学にあり」という建学の精神に則り、物事の本質に迫り、自分の頭で考え、判断して、行動することが本学の学びです。どんな事象も突き詰めて考えると、それぞれに複雑な背景があり、単純に理解することは困難ですが、本学の学生、教職員の皆さんには、そこで考えることを諦めず、自分なりに納得できるまでとことん考え抜いてほしいと思っています。

東洋大学ではデジタル技術を十分に活用し、学修者視点に立った教育を実現するため、「東洋大学教育DX(デジタルトランスフォーメーション)推進基本計画」を策定し、学生のキャンパスライフを充実させるためのツールとして「東洋大学公式アプリ」を開発し、2022年4月から運用を始めました。学生たちが十分に活用し、より豊かな学びを追求してくれることを期待しています。

本学では「東洋大学の心」として大切にしている「他者のために自己を磨く」「活動の中で奮闘する」という言葉があります。これらの言葉は困難の中にある他者のために奮闘を繰り返すことで、自分のアイデンティティを確立していくという意味を持ちます。東洋大学は、学生や教職員をはじめとした本学に関わるすべての皆さんとともに、自己を磨き、地球社会の明るい未来に貢献していきます。

It has been two years since the beginning of COVID-19. Also, in February 2022, the military invasion of Ukraine began, causing an alarming situation. However, no matter what the circumstances, the mission of a university remains the same: to provide students with a place of learning. In this unpredictable and unstable world situation, I feel all the more that the role of a university is to provide a place and time to think through such questions as "Why do things like this happen?" "Why can no one stop this?" and "How can we find clues to solution?"

Under the founding spirit of "The Basis of All Learning Lies in Philosophy," our students are expected to discern the true nature of things, think, judge, and act on their own. That is what learning at our University is all about. When you think through any event, you realize that each event has a complex background, and it is difficult to understand it simply; however, we hope that all of our students, faculty and staff members will, through perseverance, think things through to the end until they are fully convinced in their own way of thinking.

Toyo University, with the aim of fully utilizing digital technology and making possible student-centered education, formulated the "Toyo University Basic Plan for the Promotion of DX in Education" and began operation of the "Toyo University Official Application" in April 2022, which was developed as a tool to enhance our students' campus life. We hope that our students will make full use of this application and pursue richer learning.

As the "Heart of Toyo University," we value the phrases, "Improving oneself for the benefit of others" and "Striving in actions." These phrases mean that one will establish one's own identity by repeatedly striving for the sake of other people in the midst of difficulties. Together with our students, faculty and staff members and all other people involved with Toyo University, we will improve ourselves and contribute to the bright future of the global community.

中期計画に基づき キャンパス整備、学部・学科再編

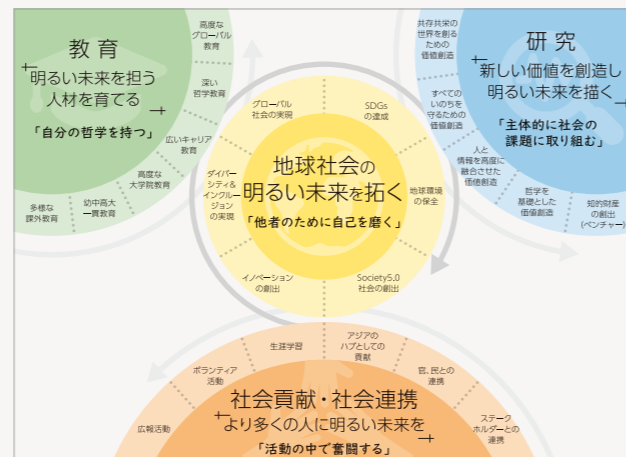


学校法人東洋大学は、2020年度から2024年度までの5年間の活動指針となる中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」を策定。この中期計画に基づくキャンパスの整備や学部・学科の再編を行います。

中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」

本学の理念の一つ“他者のために自己を磨く”に基づき策定した「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」では、「地球社会の明るい未来を拓く」をキーコンセプトに「研究」「教育」「社会貢献・社会連携」と、それらを実現するための「新規事業」「ガバナンス・マネジメント」の5つの領域で今後の目標を定めました。

各領域の目的として、研究は「新しい価値を創造し明るい未来を描く」、教育は「明るい未来を担う人材を育てる」、社会貢献・社会連携は「より多くの人に明るい未来を」と設定。それぞれが円了的理念である“主体的に社会の課題に取り組む”“自分の哲学を持つ”“本質に迫って深く考える”を踏まえたものです。これらを実現する「新規事業」「ガバナンス・マネジメント」によって、明るい未来の実現に貢献していくことを目指します。



福祉社会デザイン学部の設置



2023年度に、ライフデザイン学部、社会学部第1部社会福祉学科を改組し、赤羽台キャンパスに「福祉社会デザイン学部」を設置します。福祉系学部学科の統合による福祉系教育体系の一本化、学部・学科、研究科・専攻の教育・研究体系の一体化、北区との全面的な連携による教育・研究の質向上等を目指します。ソフト・ハード両面での福祉の一大拠点とし、国内外、とりわけ「アジアのハブ大学」としてアジアに向けて福祉分野の知見を発信していきます。

健康スポーツ科学部の設置



2023年度に、ライフデザイン学部健康スポーツ学科、食環境科学部食環境科学科スポーツ・食品機能専攻を改組し、赤羽台キャンパスに「健康スポーツ科学部」を設置。スポーツ系の学科・専攻の統合、「スポーツ」と「栄養」の連携による高度な健康科学の追求、「健康」と「福祉」の連携、「健康」と「情報」の連携等、学際的な教育研究を展開します。日本及び国際社会が抱える少子高齢化・人口減少といった諸問題に、スポーツ科学、栄養科学、健康科学等の研究成果によって貢献し、「スポーツの知の拠点」となることを目指します。

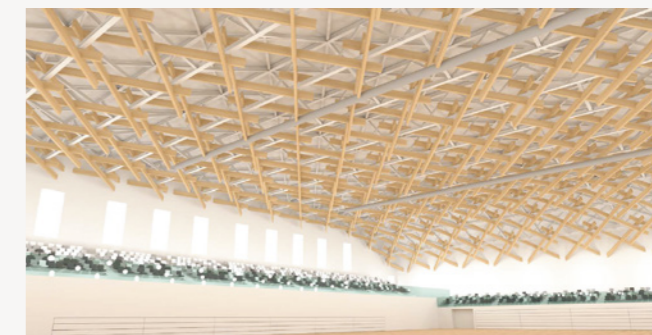
赤羽台キャンパス(東京都北区)の拡充・整備

現在、赤羽台キャンパスは福祉社会デザイン学部、健康スポーツ科学部の設置に向けて建設中です。工事では、体育館棟、図書館棟、食堂棟などからなるHELSP0 HUB-3の建設を予定しており、2023年1月完成予定です。INIAD HUB-1 (2017年完成)、WELLB HUB-2 (2021年完成)に続き、

隈研吾氏の設計によりキャンパス全体に統一感を演出します。体育館の屋根には鉄骨と木のハイブリッド構造である「木屋根架構」を採用することにしています。



HELSP0 HUB-3(体育館棟・図書館棟)



体育館内イメージ

板倉キャンパス等から朝霞キャンパス(埼玉県朝霞市)への学部移転・改組、朝霞キャンパスの整備

2024年4月に生命科学部・食環境科学部・生命科学研究所・食環境科学研究所が、板倉キャンパス(群馬県板倉町)から朝霞キャンパス(埼玉県朝霞市)に移転します。同時に、理工学部生体医工学科・理工学研究科 生体医工学専攻が、川越キャンパス(埼玉県川越市)から朝霞キャンパスに移転します。

また、移転に合わせ、朝霞キャンパスに新たな校舎を建設します(2024年1月完成予定)。これからの生活様式をふまえた教育研究に関する施設設備を充実させ、生命(いのち)と食に関する総合的な教育研究拠点を形成します。



©株式会社石本建築事務所

2024年竣工予定の朝霞キャンパス鳥瞰パース

2022年(白山・赤羽台・板倉)

赤羽台	情報連携学部	情報連携学科
白山	社会学部	社会福祉学科(第1部)
赤羽台	ライフデザイン学部	生活支援学科 生活支援学専攻 生活支援学専攻 子ども支援学専攻
		人間環境デザイン学科
		健康スポーツ学科
板倉	食環境科学部	食環境科学科 スポーツ・食品機能専攻

2023年(赤羽台)

情報連携学部	情報連携学科	※2017年度より設置
NEW 福祉社会 デザイン学部*1	社会福祉学科	入学定員 216名
	子ども支援学科	入学定員 100名
	人間環境デザイン学科	入学定員 160名
	健康スポーツ科学部*2	健康スポーツ科学科 入学定員 230名
	栄養科学科	入学定員 100名

*1 開設にともない社会学部 第1部 社会福祉学科(白山キャンパス)とライフデザイン学部 生活支援学科 生活支援学専攻・子ども支援学専攻・人間環境デザイン学科(いずれも赤羽台キャンパス)は2023年度に募集を停止します。社会学部 第1部 社会福祉学科の在学生の修学キャンパスは、2023年度から赤羽台キャンパスとなります。

*2 開設にともないライフデザイン学部 健康スポーツ学科(赤羽台キャンパス)と食環境科学部 食環境科学科 スポーツ・食品機能専攻(板倉キャンパス)は2023年度に募集を停止します。食環境科学部 食環境科学科 スポーツ・食品機能専攻の在学生の修学キャンパスは、2024年度から赤羽台キャンパスとなります。

2022年(板倉・川越)

板倉	生命科学部	生命科学科 応用生物科学科
川越	理工学部	生体医工学科
板倉	食環境科学部	食環境科学科 フードサイエンス専攻*1 健康栄養学科

2024年(朝霞)

生命科学部	生命科学科	入学定員 113名
	生体医工学科(開設)*2	入学定員(予定) 113名
	生物資源学科(開設)*2	入学定員(予定) 113名
食環境科学部	食環境科学科	入学定員(予定) 126名
	フードデータサイエンス学科(開設)	入学定員(予定) 113名
	健康栄養学科	入学定員 100名

〈開設〉:2022年5月現在、設置構想中。〈開設〉の学科の名称は仮称であり、計画内容は変更になる可能性があります。

*1 食環境科学部 食環境科学科 フードサイエンス専攻は2024年度にフードサイエンス専攻としての募集を停止します(食環境科学科は、朝霞キャンパス移転後も引き続き募集します)。

*2 開設にともない理工学部 生体医工学科(川越キャンパス)と生命科学部 応用生物科学科(板倉キャンパス)は2024年度に募集を停止します。移転対象の学部学科(募集停止する学科を含む)の在学生の修学キャンパスは、2024年度から朝霞キャンパスとなります。

教育DXの推進



コロナ禍を経て得た知見を最大に生かし、学生の学びやキャンパスライフの充実を図ってまいります。

全学を挙げて取り組む「東洋大学教育DX推進基本計画」

本計画の基本方針として「学生ひとり一人の成長を約束するため、デジタルを十分に活用した学修者本位の教育の実現を目指す、大学全体の教育の高度化と質保証を十全にすること」を掲げ、5つの計画のもとに、学生の「知」が交流し「学び」が創造される機会の充実を目指しています。

多様な学生が集う東洋大学では、カリキュラムや学習の本質を追求するとともに、教職員の業務や組織、プロセスを柔軟に見直し、デジタル技術を活用して、時代の変化に対応する教育モデルを確立していきます。

計画1

入学から卒業まで一貫した教育情報のデータ統合とAI解析結果の最適活用



計画2

オンキャンパスとオフキャンパスの学習スタイルの高度化と多様化



計画3

建学の精神の具現化を目的としたリカレント教育の世界展開（国内地域含む）



計画4

学生の成長を中心に据えた体系性あるFD・SDプログラムの構築と学内業務の断捨離



計画5

デジタル活用推進本部による推進体制と外部人材を採り入れた評価体制



学生向け「東洋大学公式アプリ」のリリース

「東洋大学教育DX推進基本計画」に基づく取り組みとして、2022年4月1日より「東洋大学公式アプリ」の運用を開始しました。公式アプリを学生の「知の旅（Learning Journey）の羅針盤」（入学から卒業・卒業後までの学びの支援）と捉え、データ活用による大学全体の教育の高度化と質保証の実現を目指していきます。

学生の学修行動・学修ログを集積し、高度な分析を可能にしていくほか、学生に最適な情報を提供していきます。また、個々の成長を自ら把握しながら、主体的な目標設定につながる気付きや学びの振り返りを柔軟に行えるよう支援するとともに、今後も教員の学習指導・アドバイスに活かせる機能を追加していく予定です。



東洋大学公式アプリ 概要

運用開始
2022年4月1日

対象ユーザー
東洋大学の学部生・大学院生

2022年4月時点の主な機能

「TOYO-info」「TOYO-navi」機能

「大学からのお知らせ」「時間割」「休講補講」の情報や、学生の「困った」を解決するための学生生活に欠かせないさまざまな情報を集約し、発信する。

「My Journey」機能

アプリからの問いかけにより新しい気付きやきっかけを提供し、学生の学修の成果や目標の管理にも活用できる。

安否確認、緊急連絡機能

大規模災害や有事の際に備え学生の安否確認を行える機能や、大学からの連絡を迅速に届ける緊急連絡機能を搭載。



SDGs達成への貢献



東洋大学は13学部・15研究科を擁する「知」の拠点として、SDGs達成に向け包括的かつ積極的に取り組んでいます。

SDGsに焦点を当てた各種教育・研究プログラムの展開

地球社会の未来を見据えた「持続可能な開発目標」であるSDGs。その根本には「誰一人取り残さない（Leave no one behind）」という理念があります。総合大学である東洋大学は、「知」の拠点としてこのSDGsに積極的に取り組むことで、地球社会の未来に大きく貢献する大学となることを目指しています。

2021年6月には「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」を制定。SDGsの理念に賛同し、地球社会の明るい未来づくりに貢献するために「教育」「研究」「社会・国際貢献」「環境貢献」「ダイバーシティ&インクルージョン」の5領域において行動目標を定めています。この憲章に基づき、SDGsに焦点を当てた教育プログラムの展開や、「東洋大学重点研究推進プログラム」によるSDGs達成に貢献する研究を推進。またSDGs活動に取り組む本学の学生や学生団体を「東洋大学SDGsアンバサダー」に認定する制度の創設など、学生、教職員とともに多面的な取り組みを展開しており、東洋大学全学生を対象としたSDGs認知度調査の2022年度の結果では76.7%の学生がSDGsに関する行動をしたという結果となりました。

さらには、社会貢献活動の一環として「講師派遣事業」にSDGs達成学習支援プログラムを創設。本学教員を派遣し、小・中・高校、特別支援学校におけるSDGs教育を支援しています。



SDGsへの「行動」をテーマとしたシンポジウムを開催



https://www.toyo.ac.jp/sdgs/chart/20210619_symposium/

本学では「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」を制定した2021年を「SDGs行動の1年」と位置づけ、6月19日に憲章制定を記念したオンラインシンポジウムを開催しました。SDGsのための「行動」をテーマに登壇者（在学生・教員・卒業生・外部有識者）がそれぞれの活動を報告し、行動憲章に基づき本学や個人が取り組むべきアクションをパネルディスカッションで提示しました。この様子は特設Webページにおいて動画（録画）配信しており、いつでもご覧いただくことができます。

2021年度「TOYO SDGs Weeks」に延べ2,564名が参加

本学におけるSDGsムーブメントの醸成と、「主体的に行動する人」の育成を目的に、2021年10月1日～11月30日を「TOYO SDGs Weeks」として、学生や教職員、地域の方々とともにSDGs関連の全26プログラムを実施しました。シンポジウムやコンテスト、ワークショップなどの多様なイベントに延べ2,564名が参加。SDGsに対する理解の促進を図りました。今後も様々な企画の実施や情報発信を進めていきます。



ルルウェー王国大使の特別講演終了後に質問する学生



食料品支援プロジェクト「Hands to Hands」ブースで学生にパンを手渡す様子

教育

Education



詳細はWebでご覧いただけます
For further details, please visit our website.

自己の哲学を磨き、物事の本質を理解する人材の育成

グローバル化の進展によって多様な価値観が混在し、急速に変化していく現代社会。時代や環境の変化に流されることなく物事の本質を捉え、未来を切り拓く力を持った人材を育成します。

Developing Human Resources Who Can Cultivate Their Own Philosophy and Understand the Essence of Things

Progress in globalization has diversified our contemporary society in terms of values, and put it in rapid flux. Toyo University will foster human resources who have the ability to grasp the essence of things and open up a brighter future, rather than those who are passively affected by social trends and situational changes.



学生・教員が学外から高い評価を獲得

東洋大学は、様々な教育・研究活動に取り組み続けており、学生・教員が学外から高い評価を受けています。その中の一人、田沼友理さん(学際・融合科学研究科)は、ナント大学(フランス)における日本人初の「ダブル・ディグリー・プログラム(PhD double degree programme)」に参加し、「新奇カーボンナノ構造体の創成」に関する研究を行い、2022年に本プログラムの学位取得者第1号となりました。

Students and Faculty Members are Highly Evaluated by External Organizations

Toyo University has continuously engaged in a variety of educational and research activities, and its students and faculty members have been highly evaluated by external organizations. Among the students, Dr. Yuri Tanuma (Graduate School of Interdisciplinary New Science), who had participated in the "PhD double degree programme" of the Nantes University (in France) and carried out research on the "Synthesis of Novel Carbon Nanostructures," became the first student to obtain a PhD under this program in 2022.



2017年開設の3学部5学科が2度目の卒業生を輩出

東洋大学では2017年にグローバル化が進む現代社会のニーズに応えるため開設した文学部国際文化コミュニケーション学科、国際学部グローバル・イノベーション学科、国際地域学科、国際観光学部国際観光学科、情報連携学部情報連携学科が2021年3月に完成年度を迎え、2022年3月に2度目の卒業生を輩出。今後も学部・学科の特性を活かした教育・研究活動を続けていきます。

Three faculties and five departments opened in 2017 producing graduates for the second time.

Toyo University celebrated the completion year in March 2021 for the Department of International Culture and Communication Studies in the Faculty of Letters, the Department of Global Innovation Studies and the Department of Regional Development Studies in the Faculty of Global and Regional Studies, the Department of International Tourism Management in the Faculty of International Tourism Management, and the Department of Information Networking for Innovation and Design in the Faculty of Information Networking for Innovation and Design, which were established in 2017 to meet the needs of today's increasingly globalized society, and produced the second graduates. We will continue our educational and research activities by taking advantage of the characteristics of our faculties and departments.



スポーツを通じた人材育成 東京・北京五輪に16名が出場

東洋大学は「スポーツを『哲学』し、人と社会と世界をむすぶ。」の理念の下、2016年に「TOYO SPORTS VISION」を掲げ、スポーツを通じた人材育成や社会貢献活動に取り組んでおり、世界を舞台に活躍する数々の選手を輩出しています。東京・北京五輪では、東洋大学史上最多の在学学生3名、卒業生13名の計16名が出場しました。

Human Resources Development through Sports A Total of 16 Athletes Competed in the Tokyo and Beijing Olympic Games

In pursuit of the Toyo Sports Vision proposed in 2016 with the key principle of "Exploring sports from a philosophical perspective to unite people, society, and the world," Toyo University has been working on the development of human resources and social contribution activities through sports and producing numerous athletes who are active on the world stage. A total of 16 athletes, including three current students and 13 graduates of Toyo University, participated in the Tokyo and Beijing Olympic Games.



国際交流宿舎「AI-House HUB-4」未来をつくるグローバル人材を育成

東洋大学は「スーパーグローバル大学創成支援事業(タイプB:グローバル化牽引型)」の採択を受け、国際化を推進しています。2022年1月には国際交流宿舎「AI-House HUB-4」を赤羽台キャンパス内にオープン。国内生と留学生が共に暮らす「共生の場」をコンセプトに、多彩な教育プログラムやイベントを通じて、異文化の理解を深め、グローバル人材の育成を目指します。

東洋大学国際交流宿舎特設サイト
<https://www.toyo.ac.jp/contents/international-exchange/residence/index.php>

International Residence "AI-House HUB-4" Nurturing Global Human Resources to Create the Future

Having been selected as one of the Type B (Global Traction Type) Universities for the Top Global University Project, Toyo University promotes internationalization. In January 2022, the international exchange dormitory, AI-House HUB-4, was opened on the Akabanedai Campus. Based on the concept of a "place of coexistence" where domestic and international students live together, we aim to deepen their cross-cultural understanding and nurture global human resources through a variety of educational programs and events.

Special Website for the Toyo University International Residence
<https://www.toyo.ac.jp/contents/international-exchange/residence/index.php>



学びを止めない、誰一人取り残さない コロナ禍における学生の学修機会確保への様々な取り組み

東洋大学では新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するとともに、学修機会の確保に向けた取り組みを教職協働で行っています。2021年10月には、対面授業の比率を高め、2022年4月からは対面授業を基本としています。感染症の影響による生計維持者失職の学生を対象とした奨学金「RIBBON」による支援の継続など、学びを止めないための取り組みを続けています。

Never Stop Education and Leave No One Behind Various Efforts to Ensure Learning Opportunities for Students in the Ongoing COVID-19 Situation

Toyo University has been working with its faculty and staff members to ensure its students' learning opportunities while thoroughly implementing measures to prevent the spread of COVID-19. In October 2021, we increased the percentage of in-person classes on campus, and from April 2022, we started to offer in-person classes on campus as a general rule. We have been continuing our efforts to ensure that our students do not stop learning, including providing continued support through the RIBBON scholarship for students whose financial provider has lost his/her job due to the effects of the infectious disease.



2021年度に第3期機関別認証評価を受審 認証評価機関である大学基準協会より適合認定

本学は、2021年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審し、大学基準に適合していると認定を受けました。「建学の理念」に基づく中期計画の推進や情報連携学部の教育活動、社会貢献センターを中心とした社会貢献活動など、5項目について高い評価をいただきました。今後も引き続き、大学の理念・目的、学部・研究科の教育目標等の実現に向け、全学的な内部質保証体制の下で改善、改革に取り組んでまいります。

Underwent Institutional Accreditation Evaluation for the Third Term in AY 2021 Conformity Accredited by Japan University Accreditation Association (JUAA), an Evaluation and Accreditation Agency

In AY 2021, Toyo University underwent a university evaluation (accreditation evaluation) implemented by the Japan University Accreditation Association (JUAA), a public interest incorporated foundation, and was accredited as conforming to the university standards. We were highly evaluated in five categories, including the promotion of our mid-term plan based on our Founding Principles, our educational activities at the Faculty of Information Networking for Innovation and Design and our social contribution activities led by the Center for Social Contribution. We will continue to make improvements and reforms under the university-wide internal quality assurance system to realize our principles and objectives as well as the educational goals of our Faculties and Graduate Schools.



独自の「自立形成力アセスメント」に紐づく 多彩なキャリア支援を実施

東洋大学では、入学直後から大学生活全般にわたって、多彩なキャリア支援を実施しています。2021年にはDX人材育成キャリアプログラムや、1・2年生対象に国内・海外企業のミッションにチャレンジする課題解決プログラムなど様々なプログラムを開催しました。今後も、学生が自らの手でキャリアを築けるための支援を続けていきます。

By Linking Our Unique "Assessment of Independence Development Skills" Provide a Variety of Career Education Support Services

Toyo University offers a variety of career education support services, starting immediately after university entry and continuing throughout the entire university life. In 2021, we conducted various programs such as the DX Human Resource Development Career Program and a problem-solving program for our first and second year students to challenge missions given by domestic and overseas companies. We will continue to support our students so that they will be able to build their careers on their own.

研究

Research



詳細はWebでご覧いただけます
For further details, please visit our website.

文理にわたる多様な研究を推進し、様々な社会の課題解決に寄与

「学術・研究」機能を継続的に発展させ、各分野の基礎研究から、産官学連携による応用研究まで幅広く推進。有用な研究成果を社会へ還元していきます。

Promoting Diverse Research Endeavors in the Humanities and Sciences to Contribute to Solutions for Various Social Issues

Toyo University continuously enhances its academic research functions, and promotes research endeavors widely ranging from basic research in each field to applied research through collaboration between industry, government and academia. The University is ready to impart useful research achievements to society.

社会連携

Social Cooperation



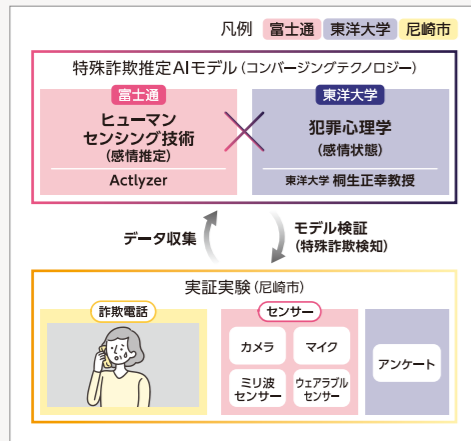
詳細はWebでご覧いただけます
For further details, please visit our website.

教育・研究機関として社会と連携し、開かれた大学へ

創立者の精神を継承した「社会に開かれた大学」として、教育・研究の知、学生の力、高度な施設などを活用し、「社会貢献」と「地域連携」を推進しています。

Collaborating with Stakeholders as an Educational and Research Institution to Become a University Open to Society

As a "university open to society" that cherishes the spirit of its founder, Toyo University promotes social contribution and collaboration with local communities, taking advantage of its strengths, including increased knowledge through educational and research activities, the power of its students, and its state-of-the-art facilities.



社会課題の解決のため様々な研究を推進 産官学連携による特殊詐欺を未然に防ぐ研究を開始

東洋大学は、社会課題の解決に向けて、自然科学、社会科学、人文科学など幅広い分野の研究や、産官学連携を積極的に推進しています。2021年度には80件を超える産官学連携での研究を行っており、富士通株式会社と尼崎市との共同研究では、AIと犯罪心理学を活用し特殊詐欺を未然に防ぐ日本初の研究を行っています。

Promoting Various Research Projects to Solve Social Issues Research on preventing telephone scams through industry-government-academia collaboration begins.

With the aim of solving social issues, Toyo University has been actively promoting research in a broad range of fields, including the Natural Sciences, Social Sciences and Humanities, as well as industry-government-academia collaboration. In AY 2021, over 80 research projects were conducted via industry-government-academia collaboration, including a joint research project with Fujitsu Limited and Amagasaki City, which was the first research project in Japan to prevent telephone scams by utilizing AI and criminal psychology.



地域の課題解決に向けた取り組みを支援 地域で活躍する人材として育成

東洋大学では、学生と教員が地域の課題解決に向けた地域活性化支援事業を推進しており、活動に対するサポートを行っています。2021年度は、コロナ禍にありながらも現地訪問とオンラインを駆使し、5件の実施に至りました。住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することで、学生の地域への理解を促し、地域で活躍する人材の育成を目指します。

Supporting Efforts for Solving Local Issues Nurture Human Resources to Play an Active Role in Regions

Toyo University promotes projects supporting regional revitalization conducted by its students and faculty members towards solving issues in the respective regions by providing them with support for their activities. In AY 2021, despite the ongoing COVID-19 situation, five projects were implemented by making full use of on-site visits and online activities. Through efforts for solving issues and regional revitalization activities together with local residents, we aim to promote our students' understanding of the respective regions and develop human resources who will play an active role there.



東京オリンピック・パラリンピックに貢献する 研究成果をオンデマンドで公開

東洋大学は、東京オリンピック・パラリンピックへの貢献、レガシーとなり得る研究成果の創出を目指し、2017年度に独自の研究助成制度「東洋大学オリンピック・パラリンピック研究助成制度」を創設。採択された7つの研究プロジェクトの研究結果報告会を2021年12月1日にオンラインで配信。研究代表者による発表やパネルディスカッションの様子を映像で公開しています。

For Contributing to the Tokyo Olympics and Paralympics Research results available on demand.

Toyo University established its own research grant program, the Toyo University Olympic and Paralympic Research Grant Program, in AY2017 with the aim of contributing to the Tokyo Olympic and Paralympic Games and creating research results as a legacy. The briefing of the seven adopted research projects was conducted and distributed online on December 1, 2021. Videos of the presentation and panel discussion by the principal researcher of each project are available online.



学生による社会貢献活動を支援 表彰および報告会を開催

東洋大学は、学生や学生団体による社会貢献活動を支援しています。2022年3月に2021年度の学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトへの表彰、学生課外活動育成会の奨励を受けて活動した団体による報告会を開催しました。被災地支援、防災オンラインワークショップといった活動や、SDGs啓発のための川柳、ポスター、動画などの優秀賞が発表されました。

Supporting Our Students' Social Contribution Activities Award Ceremony and Debriefing Session Held

Toyo University supports social contribution activities carried out by its students and student groups. In March 2022, we held an award ceremony to encourage projects such as social contribution activities carried out by student groups in AY 2021 and a debriefing session by student groups who had received encouragement from the Ikuseikai: Student Support Association to conduct their activities. Activities such as support for disaster-affected areas and online workshops for disaster prevention as well as excellence awards for senryu (satirical haiku), posters and videos for raising awareness of the SDGs were presented.



地球レベルの課題解決に貢献する 「東洋大学重点研究推進プログラム」を推進中

東洋大学は、地球レベルの課題解決に貢献する先端的な研究プロジェクトを支援するため2018年に「東洋大学重点研究推進プログラム」を創設。9つの重点研究課題に基づき、現在、「バイオミメティクス活用による高機能かつ持続可能なものづくり」、「極限環境微生物の先端科学をSDGs達成のために社会実装する研究」など7つのプロジェクトが3年計画で研究活動を推進しています。

For Contributing to Solving Global-Level Issues Toyo University Top Priority Research Program is Underway

In order to support cutting-edge research projects that will contribute toward solving global-level issues, Toyo University established Toyo University Top Priority Research Program in 2018. Based on nine focal research issues, seven projects are currently promoting research activities under a three-year plan, including "High-performance and Sustainable Manufacturing by utilizing biomimetics" and "A study to implement advanced science on extremophiles in society to achieve the SDGs."



生涯学習への取り組みとして 東洋大学講師派遣事業および公開講座を実施

東洋大学講師派遣事業および公開講座は、SDGsにおける「4.質の高い教育をみんなに」を共通目標とし、生涯学習への取り組みとして各種講座開講を実施しています。2021年度には公開講座35件、講師派遣49件を実施。13学部15研究科を擁する「知の拠点」として、今後も幅広い学問系統と深い専門性を講義としてお届けします。

As Efforts toward Lifelong Learning Toyo University Conducts the Lecturer Dispatch Project and Extension Programs

We conduct the Toyo University lecturer dispatch project and extension programs with the common goal of SDG 4: Quality Education, and offer various lectures as part of our lifelong learning efforts. In AY 2021, we offered 35 extension programs and conducted 49 lecturer dispatches. As a "hub of knowledge" with 13 Faculties and 15 Graduate Schools, we will continue to offer our deep expertise in a wide range of academic fields in the form of lectures.

附属学校・幼稚園

Attached Schools and Kindergarten



詳細はWebでご覧いただけます
For further details, please visit our website.

学校法人東洋大学は東洋大学を中核とし、3つの中学校・高等学校と幼稚園を設置する総合学園です。変化の激しい時代の中で自身の哲学を持ち、明るい未来を担える人材を育成するため、「幼中高大一貫教育」の推進を中期計画に定めています。

Toyo University Incorporated Educational Institution is a comprehensive school, with Toyo University as its core and three junior and senior high schools as well as one kindergarten. In order to develop human resources who have their own unique philosophies and are able to create a bright future in these rapidly changing times, we include the promotion of "integrated education for kindergarten, junior and senior high school and the University" in our medium-term plan.

中学校・高等学校



東洋大学附属姫路中学校・高等学校

東洋大学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」に沿って、考える力の育成と校訓「自立・友情・英知」を基礎に据えた教育を行っています。ものごとの本質を追求するための「考える力」、国際社会で求められる「自分の意見をはっきりと持ち、発信できる力」、社会人に必要な自立心を培い「自らの進路を自分で考え、選択できる力」を3つの柱とし、未来を担うグローバル人材の育成に向けた取り組みを行っています。

附属姫路中学校は姫路市内初の男女共学中高一貫校として2014年に開校。附属姫路高等学校は2013年に創立50周年を迎え、新校舎に建て替え次なる50年に向けた新たな挑戦を始めています。2022年からは制服もコース制もリニューアルしました。

東洋大学附属姫路高等学校

2021年7月、東洋大学附属姫路高等学校がこの日だけ「大学」に変わる学びのイベント「1Day University」を実施しました。東洋大学および近隣の国立大学、私立大学などから教員を招き、文理の幅広い分野における講義を合計38講義、対面やオンラインにて開講し、高校1年生から3年生まで全員が受講。専門的な内容や最先端の話題、深刻な社会問題に対する大学レベルの考察など本格的な講義が展開されました。

また、学校教育の一環として生徒の心身の成長を促すクラブ活動においては、2022年3月18日に開幕した「第94回選抜高等学校野球大会」に、野球部が14年ぶり8回目の出場を果たしました。それ以外にも全国大会に多数のクラブが出場しました。



第94回選抜高等学校野球大会に出場した野球部

東洋大学附属姫路中学校

東洋大学附属姫路中学校ではアクティブ・ラーニングの要素を取り入れた独自のプログラム「キャリア・フロンティア」を実施しています。本プログラムでは発表・討論等を通じたコミュニケーション能力と、課題研究等によって培われる問題発見能力や課題解決能力の育成を図ります。

2021年6月にはプログラムの一環として「学年弁論大会」を実施。各クラスから代表に選ばれた計10名の弁士が演台に立ち、熱の入った弁論を繰り広げました。

また、「考える力」を養う哲学教育を基本としながら、英語力を高める国際交流プログラムも充実。2021年3月には、外国人講師7名の協力を得て、2日間にわたり英語を聞き続け、英語で話をしていく「All English Days」を行いました。



「All English Days」



東洋大学附属牛久中学校・高等学校

スーパーグローバル大学の附属校として、中高大連携によるグローバル人材育成教育を進めています。海外語学研修、国際交流活動、ディベートなどの多彩な教育内容により、確かな語学力を身につけ、多様性の理解を進めます。さらに、オリジナル教科である「グローバル探究」(哲学・国際理解・教養・課題研究・キャリア)を通じ、未来へ踏み出す力を育成します。

高等学校には、生徒の個性に合わせた5つのコース(特別進学・グローバル・進学・スポーツ・中高一貫)を設置。附属中学校から内部進学した中高一貫コースの生徒は、教育課程を早期修了し、希望進路の実現を目指します。

東洋大学附属牛久中学校

2017年より行ってきたプログラミング講座を生徒一人一人がより独創的にアルゴリズムを設計できるよう内容を一新し、2020年に新しい講座を開講しました。2021年8月には大分県立芸術文化短期大学の望月陽一郎先生を招き、大分県から遠隔通信でmicro:bitを用いたプログラミング講座を実施しました。プログラミング活動そのものの学びとともに、情報社会におけるプログラミングへの興味を促しました。

2021年11月には、生徒会行事である「創造祭」に東洋大学附属牛久高等学校のOGである東京オリンピック2020女子スポーツクライミング銅メダリスト野口啓代さんを招き、講演会を実施。代表生徒2名との対談形式で、在校中の思い出から、クライミングとの出会い、東京オリンピックの思い出など、1時間にわたってお話をいただきました。



「創造祭」で実施された野口啓代さんの講演会

東洋大学附属牛久高等学校

2021年6月、台湾留学サポートセンターの仲介で、台湾の7大学と、同校を含めた日本国内8高校が連携協定をオンライン上で締結しました。この協定により、台湾の7大学への奨学金付きの優先的進学、プログラミング教育や姉妹校協力、研修旅行やサマーキャンプ等の優遇を得られることになりました。また、英語をはじめとした語学力向上の機会や環境整備も積極的に進めています。2022年1月には、ストリーム配信にて実施された「第25回全国高校生中国語スピーチコンテスト」に、生徒2名が参加。初級部門で京都外国語大学総長賞を受賞、中級部門で京都商工会議所会頭賞を受賞しました。



台湾の7大学と日本国内8高校の連携協定式



東洋大学京北中学高等学校

大学附属の男女共学・中高一貫教育校として、附属校のメリットを最大限に活かしながら国立大学や難関私立大学への進学を目指しています。「より良く生きる」をテーマとした哲学教育(生き方教育)、国際社会で活躍できる力を身に付ける国際教育、そして自己の人生を意欲的に創造するキャリア教育を3本の柱として強力に実践しています。

数学・理科・情報に対する生徒たちの興味・関心を高めることを目的とした「KSST(京北スーパーサイエンスチーム)」の活動も推進し、東洋大学の生命科学部、食環境科学部、文学部(教育学科)との連携プログラムである「未来の科学者育成プロジェクト」に参加するなど、理科教育にも強い学校の実現を目指します。

東洋大学京北中学高等学校

中学3年生の社会(公民)の授業において、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社によるインターンシップ体験プログラムである授業「株の力」(全5回)を行いました。金融の仕組みや証券の機能およびその社会的役割についての知識を深めることを目的に、他校との交流も交えながらオンラインでのプレゼンテーションを行いました。

また、アメリカ ハワイ州のカイルア高校の生徒と同校の高校2年生が、手紙の交換を通して哲学的に思索を深めるプログラムに取り組んでいます。外国人教員の力も借りながら、異国の友人に向けて英語で手紙を書き、日本とハワイの文化の違い、コロナ禍での生活の変化や気付きなど、多岐にわたる話題について語りながら交流を行っています。



英語での文通

幼稚園



京北幼稚園

人間形成の基礎をつくる最も貴重な幼児期に、同年齢・異年齢の幼児が交流し、成長段階に適切な遊びを中心とする生活を通して、身の周りの物事に興味や関心を示し、自分でやってみようとする行いや自主性を育成していくことを目指しています。

この方針に基づき、各クラスとも成長段階にふさわしい年間・学期・月間・週間のカリキュラム(指導目標)を設定して、ステップバイステップを基本として自由な活動とクラスでまとまって行う活動を組み合わせた保育を行っています。同時に、教員の研修活動にも取り組んでおり、常に保育内容や技術のレベルアップを心掛けています。



国際交流データ International Exchange Data

留学生数・留学者数

派遣留学者数 (中途帰国者を含む)

プログラム名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
交換留学(派遣)	74	152	161	12	70
認定留学	11	25	18	4	2
協定校語学留学	103	180	179	36	0
語学セミナー*	116	156	180	57	153
合計	304	513	538	109	225

*国際教育センター主催のプログラムのみを対象
 ※2020・2021年度は新型コロナウイルスの影響によりオンラインで実施

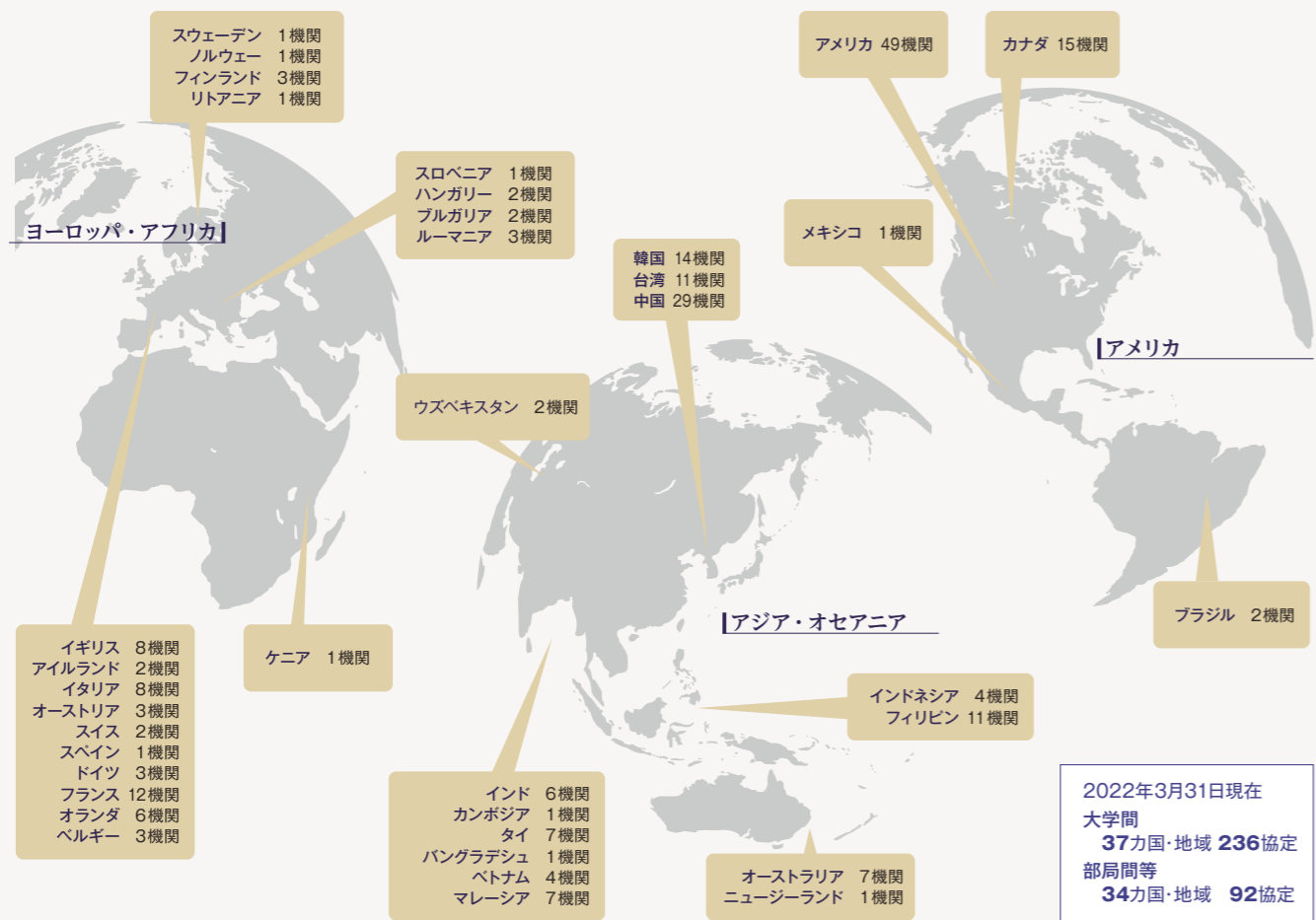
受入留学者数

プログラム名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
交換留学(受入)	85	132	194	4	44

国費留学生受入数 (延べ人数)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
大学院	25	22	24	15	11

大学間海外協定先等一覧 (2022年3月31日現在)



出身国別留学者数 (2022年5月1日現在)

掲載データは本書発行時期における最新の集計結果を掲載しております。発行後に更新される情報は本書Webサイトでご確認ください。

アメリカ	イギリス	イタリア	インド	インドネシア	ウズベキスタン	オランダ	ガーナ
学部合計1 大学院合計1 総合計1	学部合計1 大学院合計1 総合計1	学部合計1 大学院合計2 総合計1	学部合計1 大学院合計1 総合計1	学部合計13 大学院合計3 総合計16	学部合計7 大学院合計1 総合計8	学部合計1 大学院合計1 総合計1	学部合計1 大学院合計1 総合計1
カタール	カナダ	韓国(朝鮮)	カンボジア	キルギス	ケニア	コートジボワール	ザンビア
学部合計1 大学院合計1 総合計1	学部合計2 大学院合計3 総合計104	学部合計101 大学院合計3 総合計104	学部合計9 大学院合計9 総合計18	学部合計1 大学院合計2 総合計3	学部合計3 大学院合計3 総合計6	学部合計1 大学院合計1 総合計2	学部合計2 大学院合計2 総合計4
スーダン	スペイン	スリランカ	ソマリア	タイ	台湾	中国	チュニジア
大学院合計2 総合計2	学部合計1 大学院合計1 総合計1	学部合計3 大学院合計3 総合計6	学部合計1 大学院合計1 総合計2	学部合計10 大学院合計10 総合計20	学部合計13 大学院合計13 総合計26	学部合計 918 大学院合計 184 総合計 1102	学部合計1 大学院合計1 総合計2
ドイツ	トルコ	トンガ王国	ナイジェリア	ニュージーランド	ネパール	パキスタン	パプアニューギニア
学部合計1 大学院合計1 総合計1	学部合計4 大学院合計5 総合計9	学部合計1 大学院合計1 総合計2	学部合計1 大学院合計1 総合計2	学部合計3 大学院合計3 総合計6	学部合計3 大学院合計3 総合計6	学部合計2 大学院合計2 総合計4	学部合計1 大学院合計1 総合計2
バングラデシュ	フィジー	フィリピン	フランス	ブルガリア	ベトナム	ポーランド	マダガスカル
学部合計1 大学院合計2 総合計3	学部合計1 大学院合計1 総合計1	学部合計11 大学院合計1 総合計12	学部合計2 大学院合計2 総合計4	学部合計5 大学院合計5 総合計10	学部合計78 大学院合計5 総合計83	学部合計1 大学院合計1 総合計2	学部合計1 大学院合計1 総合計2
マラウイ	マレーシア	南アフリカ	ミャンマー	モザンビーク	モロッコ	モンゴル	ラオス
学部合計4 大学院合計4 総合計8	学部合計20 大学院合計1 総合計21	学部合計2 大学院合計2 総合計4	学部合計12 大学院合計1 総合計13	学部合計1 大学院合計1 総合計2	学部合計1 大学院合計1 総合計2	学部合計13 大学院合計13 総合計26	学部合計1 大学院合計1 総合計2
ルワンダ	ロシア						
学部合計3 大学院合計3 総合計6	学部合計1 大学院合計1 総合計2						

学部(第1部)合計1,234名 大学院合計239名 総計1,473名



研究データ / 図書館データ Research Data / Library Data

研究データ

科学研究費助成事業の保有件数および保有金額

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
保有件数	211	207	221	196
保有金額 (単位:千円)	336,744	318,498	343,748	297,231

科学研究費新規応募採択状況 (第1回交付内定時)

2018年度			2019年度			2020年度			2021年度		
申請数	採択数	採択率	申請数	採択数	採択率	申請数	採択数	採択率	申請数	採択数	採択率
214	47	22.0%	247	67	27.1%	196	62	31.6%	159	41	25.8%

外部資金による研究件数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
科学研究費助成事業	216	211	207	221	196
共同研究・受託研究	74	77	79	80	83
奨学寄付金・助成金等	38	40	39	24	25
合計	328	328	325	325	304

外部資金による研究費 (単位:千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
科学研究費助成事業	329,024	336,744	318,498	343,748	297,231
共同研究・受託研究	137,338	151,196	152,315	305,372	299,652
奨学寄付金・助成金等	29,218	56,285	58,470	46,336	32,792
合計	495,580	544,225	529,283	695,456	629,675

学位授与状況 (2021年4月1日~2022年3月31日授与)

	9月修了		3月修了		博士(論文)
	修士	博士(課程)	修士	博士(課程)	
文学研究科	2	1	24	2	0
社会学研究科	6	0	20	1	0
法学研究科	0	0	6	0	0
経営学研究科	0	0	31	1	0
理工学研究科	5	0	71	1	2
経済学研究科	3	0	26	0	0
国際学研究科	4	2	7	0	0
国際観光学研究科	4	0	8	0	0
国際地域学研究科		0		0	0
生命科学研究科	0	0	22	1	0
社会福祉学研究科	0	0	9	0	0
ライフデザイン学研究科	0	0	13	0	0
福祉社会デザイン研究科	1	0	0	3	0
学際・融合科学研究科	0	0	6	1	0
総合情報学研究科	1	0	15	1	0
食環境科学研究科	0	0	11	0	0
情報連携学研究科	0		6		
合計	26	3	275	11	2

発明届出数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
発明届出数	20	23	22	16	16

特許出願件数

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
単独出願	11	13	13	8	8
共同出願	5	7	3	6	7
合計	16	20	16	14	15

知的財産実施許諾等

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
件数	9	7	8	6	8
金額(単位:千円)	1,918	1,780	1,924	701	2,307

図書館データ

図書所蔵数 (2022年3月31日現在)

	和書	洋書	合計
白山図書館	753,456	233,383	986,839
川越図書館	148,964	60,642	209,606
板倉図書館	71,774	10,944	82,718
赤羽台図書館	249,857	24,379	274,236

雑誌所蔵タイトル数 (2022年3月31日現在)

	和雑誌	洋雑誌	合計
白山図書館	8,846	2,406	11,252
川越図書館	1,195	1,453	2,648
板倉図書館	323	185	508
赤羽台図書館	1,616	466	2,082

入館者数 (2021年度開館日)

	開館日数	延べ入館者数
白山図書館	299	81,383
川越図書館	267	53,731
板倉図書館	274	40,223
赤羽台図書館	268	12,818



経済・財政 Economy & Finance

貸借対照表

「学校法人の体力(財務状況・安全性)」を把握することができます。

(単位:百万円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
固定資産	200,752	208,037	210,768	216,818	222,766
流動資産	31,862	32,620	34,628	34,649	32,477
資産の部合計	232,614	240,657	245,396	251,467	255,243
固定負債	8,809	8,762	8,842	8,938	8,984
流動負債	11,120	10,759	10,322	10,777	10,363
負債の部合計	19,929	19,522	19,164	19,715	19,347
基本金	246,951	258,419	266,160	267,435	274,769
繰越収支差額	△ 34,266	△ 37,284	△ 39,928	△ 35,682	△ 38,873
純資産の部合計	212,685	221,135	226,232	231,753	235,896
負債および純資産の部合計	232,614	240,657	245,396	251,467	255,243

財務指標

経営成績や財政状態を数値化することで、学校法人としての「安全性」や「成長性」を読み取ることができます。

主な財務比率比較

(単位:%)

比率名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
事業活動収支差額比率[基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入]	13.6	18.0	11.6	12.1	9.0
基本金組入後収支比率[事業活動支出/(事業活動収入-基本金組入額)]	96.4	108.5	107.3	90.4	108.2
学生生徒等納付金比率[学生生徒等納付金/経常収入]	80.6	79.0	80.0	78.9	76.6
人件費比率[人件費/経常収入]	48.3	48.4	49.0	47.7	47.4
教育研究経費比率[教育研究経費/経常収入]	33.9	33.0	34.9	36.8	37.5
管理経費比率[管理経費/経常収入]	3.6	3.5	3.9	3.4	3.7
流動比率[流動資産/流動負債]	286.5	303.2	335.5	321.5	313.4
負債比率[総負債/純資産]	9.4	8.8	8.5	8.5	8.2
純資産構成比率[純資産/(総負債+純資産)]	91.4	91.9	92.2	92.2	92.4
基本金比率[基本金/基本金要組入額]	99.7	99.8	99.9	99.7	99.8
教育活動資金収支差額比率[教育活動資金収支差額/教育活動資金収入計]	24.9	21.7	22.8	21.3	22.2

※「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計

寄付金状況

寄付金の種類	2021年度	
	金額	摘要
特別寄附金	261,324千円	4,137件
奨学寄附金	12,003千円	11件
教育・研究協力資金	130,898千円	3,992件
教育・研究協力資金(施設)	12,546千円	83件
その他の特別寄附金	105,877千円	51件
古本募金	195千円	41件
リユース募金	3千円	3件
その他	105,679千円	7件
一般寄附金	20,700千円	2件
現物寄附金	83,374千円	737件
合計	365,398千円	4,876件

補助金状況

(単位:千円)

補助金の種類	2021年度補助金額
国庫からの補助金	4,017,622
私立大学等経常費補助金	2,709,484
一般補助	2,511,327
特別補助	198,157
成長力強化に貢献する質の高い教育	4,890
社会人の組織的な受入れ	3,600
大学等の国際交流の基盤整備	48,912
大学院等の機能の高度化	118,755
私立大学等改革総合支援事業	22,000
私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究設備整備費等補助金	32,740
私立学校情報機器整備費(遠隔授業活用推進事業)補助金	9,375
国際化拠点整備事業費補助金(スーパーグローバル大学創成支援事業)	53,530
研究拠点形成費等補助金(Society5.0に対応した高度技術人材育成事業)	12,819
大学等における修学の支援に関する法律による授業料等減免費交付金	1,196,132
その他の補助金	3,542
地方公共団体等からの補助金	1,520,239
私立学校経常費補助金	1,399,415
授業料軽減補助金・入学金軽減補助金	82,361
その他の補助金	38,464
合計	5,537,862



キャンパス・施設/附属学校等 Campus Facilities etc.

キャンパス・施設

白山キャンパス Hakusan Campus



文学部/経済学部/経営学部/法学部/社会学部/国際学部/国際観光学部/文学研究科/社会学研究科/法学研究科/経営学研究科/経済学研究科/国際学研究科/国際観光学研究科/社会福祉学研究科
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 TEL. 03-3945-7224
5-28-20 Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo

赤羽台キャンパス Akabanedai Campus



情報連携学部/ライフデザイン学部/情報連携学研究科/ライフデザイン学研究科
〒115-8650 東京都北区赤羽台1-7-11 TEL. 03-5924-2100
1-7-11 Akabanedai, Kita-ku, Tokyo

川越キャンパス Kawagoe Campus



理工学部/総合情報学部/理工学研究科/学際・融合科学研究科/総合情報学研究科
〒350-8585 埼玉県川越市鯉井2100 TEL. 049-239-1300
2100 Kujirai, Kawagoe-shi, Saitama

板倉キャンパス Itakura Campus



生命科学部/食環境科学部/生命科学研究科/食環境科学研究科
〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1 TEL. 0276-82-9111
1-1-1 Izumino, Itakura-machi, Oura-gun, Gunma

朝霞キャンパス Asaka Campus

※朝霞キャンパスは2024年4月より使用予定です
〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1
48-1 Oka, Asaka-shi, Saitama

大手町サテライト Otemachi Satellite

経済学研究科(公民連携専攻)
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル1F TEL. 03-3231-1021
1F New Otemachi Building, 2-2-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo

総合スポーツセンター General Sports Center

〒174-0053 東京都板橋区清水町92-1 TEL. 03-6454-3340
92-1 Shimizu-cho, Itabashi-ku, Tokyo

附属学校等

東洋大学附属
姫路中学校・高等学校
Toyo University Himeji Junior and Senior High School

〒671-2201 兵庫県姫路市書写1699
TEL. 079-266-2626
1699 Shosha, Himeji-shi, Hyogo

東洋大学附属
牛久中学校・高等学校
Toyo University Ushiku Junior and Senior High School

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町1360-2
TEL. 029-872-0350
1360-2 Kashiwadacho, Ushiku-shi, Ibaraki

東洋大学
京北中学高等学校
Toyo University Keihoku Junior and Senior High School

〒112-8607 東京都文京区白山2-36-5
TEL. 03-3816-6211
2-36-5 Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo

京北幼稚園
Keihoku Kindergarten

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-13-5
TEL. 03-3941-7090
2-13-5 Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo